

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-12070

(P2001-12070A)

(43) 公開日 平成13年1月16日 (2001.1.16)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

E 0 4 F 19/04

識別記号

1 0 1

F I

E 0 4 F 19/04

テマコード\* (参考)

1 0 1 D

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平11-182129

(22) 出願日 平成11年6月28日 (1999.6.28)

(71) 出願人 599090073

上妻 輝也

福岡市南区老司3丁目22-13

(72) 発明者 上妻 輝也

福岡市南区老司3丁目22-13

(74) 代理人 100109988

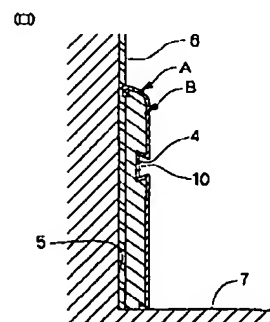
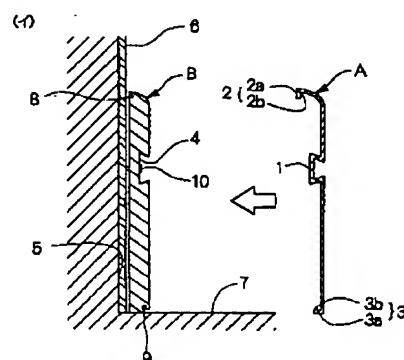
弁理士 今村 定昭 (外3名)

(54) 【発明の名称】 コーナーパッドおよびそれが使用される幅木

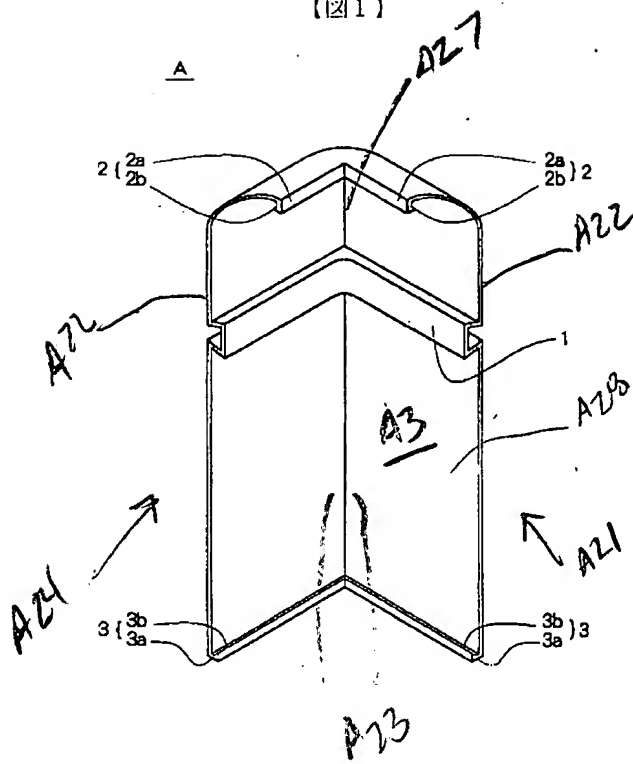
(57) 【要約】

【課題】 簡単な作業によりかつはずれにくく確実に固定できるコーナーパッドおよびそれが使用される幅木を提供すること。

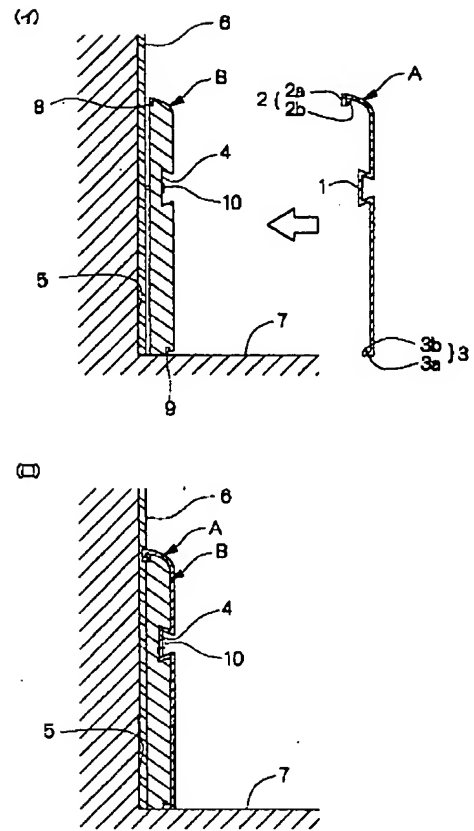
【解決手段】 上下方向の両端縁に設けた爪部2、3を幅木Bの裏面および下面に係止させ、さらに爪部2、3の基部2a、3a先端に突設した係止突部2b、3bを幅木Bに設けた溝8、9とそれぞれ係合させ、裏面に突設した環形の突条1を幅木Bの表面に凹設した溝4と嵌合させた状態で、幅木Bと一体に壁5に固定する。



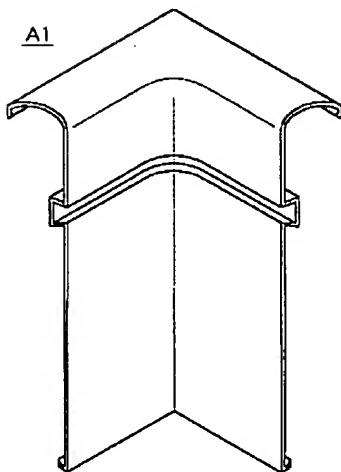
【図1】



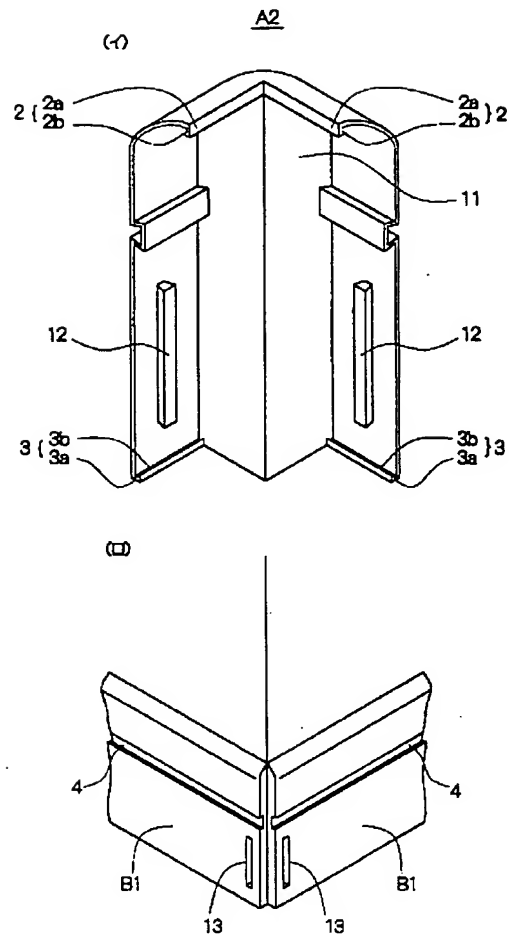
【図2】



【図4】



【図5】



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 壁面の角に面した二つの幅木を接合して幅木の隅部を構成し、二つの幅木の端部側面および上面を被覆するコーナーパッドであって、

上端または下端の少なくとも一方に、幅木に係止する爪を形成したことを特徴とするコーナーパッド。

【請求項2】 前記爪は鉤状に形成されていることを特徴とする請求項1記載のコーナーパッド。

【請求項3】 前記コーナーパッドの裏面には突条が形成され、この突条と幅木の溝に係合することを特徴とする請求項2記載のコーナーパッド。

【請求項4】 前記突条は根元が収束して先が拡幅し、拡幅部分が前記幅木の溝に嵌合することを特徴とする請求項3記載のコーナーパッド。

【請求項5】 前記コーナーパッドをゴム等の柔軟素材で形成したことを特徴とする請求項1ないし4のいずれかの項に記載のコーナーパッド。

【請求項6】 上端および下端に、コーナーパッドの上端および下端に形成された鉤状の爪に係止可能な溝が形成され、

表面に、コーナーパッドの裏面に形成され根元が収束して先が拡幅した突条を嵌合可能な溝が形成されていることを特徴とする請求項1ないし5のいずれかの項に記載のコーナーパッドに使用する幅木。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、壁面の下端に取り付けられる幅木の隅部に取り付けられるコーナーパッドに関し、詳しくはコーナーパッドおよびそれが使用される幅木に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、室内の入隅、出隅における幅木の接合方法としては、幅木の先端に平面視45°傾斜した突き合わせ面を形成し、両傾斜面を突き合わせた後、留め加工を行うのが一般的であるが、この方法では、幅木を寸法に合わせて正確にカットしなければならず手間がかかるし、仕上がりにムラが生じやすい。また、施工後においても、時間の経過に伴い幅木が反りや撓み等の変形を起こして突き合わせ箇所が開いたり、特に出隅コーナーにおいて隅部がささくれたり一方の幅木の先端が突き出した状態となることが多く、歩行中に靴下やストッキングを引っ掛けて破ったり、特に乳幼児や高齢者が足をぶつけた場合怪我をする蓋然性が高い。このような問題点を解決するため、最近では、合成樹脂等で成型されたコーナーパッドを設けてこのコーナーパッドで隅部を被覆する施工方法が広く使用されている。これは、幅木の先端を適当にカットした後、コーナーパッドを上から被せるもので、この方法によれば、留め加工や正確な切断加工をすることなく、誰でも簡単に施工が行え、しかも、隅部の外観を美しく仕上げることができる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述のコーナーパッドは、通常両面テープや接着剤を用いて固定されていたため、以下のような問題を有していた。

(1) 両面テープ等を使用すれば施工が簡単である反面、接着力が弱く、時間が経過するとともに外れやすくなってしまうし、特にコーナーパッドの周縁部分が幅木から浮いた状態となる。これを補うため、テープで貼着した後にコーナーパッドの上からタッカーを打ち込んでいたが、タッカーが露出した状態となってしまうため、見栄えが悪かった。

(2) 接着剤を使用する場合は、接着剤を塗布する際に床や壁、幅木表面を汚さないように作業を慎重に行わなければならないが、面倒であった。

本発明は、従来の技術の有するこのような問題点を鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、簡単な作業によりかつはずれにくく確実に固定できるコーナーパッドおよびそれが使用される幅木を提供しようとするものである。

## 20 【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、請求項1記載のコーナーパッドでは、壁面の角に面した二つの幅木を接合して幅木の隅部を構成し、二つの幅木の端部側面および上面を被覆するコーナーパッドであって、上端または下端の少なくとも一方に、幅木に係止する爪を形成したことを特徴とする。請求項2記載の発明では、請求項1記載のコーナーパッドにおいて、前記爪は鉤状に形成されていることを特徴とする。請求項3記載の発明では、請求項2記載のコーナーパッドにおいて、前記コーナーパッドの裏面には突条が形成され、この突条と幅木の溝に係合することを特徴とする。請求項4記載の発明では、請求項3記載のコーナーパッドにおいて、前記突条は根元が収束して先が拡幅し、拡幅部分が前記幅木の溝に嵌合することを特徴とする。請求項5記載の発明では、請求項1ないし4のいずれかの項に記載のコーナーパッドにおいて、前記コーナーパッドをゴム等の柔軟素材で形成したことを特徴とする。請求項6記載の幅木では、請求項1ないし5のいずれかの項に記載のコーナーパッドに使用する幅木であって、上端および下端に、コーナーパッドの上端および下端に形成された鉤状の爪に係止可能な溝が形成され、表面に、コーナーパッドの裏面に形成され根元が収束して先が拡幅した突条を嵌合可能な溝が形成されていることを特徴とする。

## 【0005】

【発明の実施の形態】実施の形態について図面を参照して説明する。

(実施の形態1) まず、構成を説明すると、図1～図3において、コーナーパッドAは、出隅用の幅木接合部材であり、例えば、塩化ビニル樹脂のようなプラスチック

を用い、射出成型加工により、厚み0.5～1.0mm程度の肉厚を有する左右対称の平面視略L字形に形成されており、L字の内側(図中手前側)が幅木Bに取り付けられる裏面となっている。さらに詳しくは、幅木Bの表面形状に沿って上部表面にアールが設けられるとともに、表面の中央やや上方よりの部分は裏面側に曲折し、裏面には幅木Bの蟻溝4に嵌着可能な蟻形の突条1が水平方向に形成されている。また、上下の端縁には鉤状に形成された爪部2、3が設けられている。なお、表面側の角は取り付け後の安全性を考慮して丸みを帯びた形状となっている。前記爪部2は鉛直方向下方に伸びる基部2aと、この基部2aの先端に設けられ幅木Bの表面側に水平に伸びる先鋭な係止突部2bとからなる。また、爪部3は幅木Bの裏面側に水平に伸びる基部3aと、この基部3aの先端に設けられ鉛直方向上方に伸びる先鋭な係止突部3bとからなる。

【0006】前記幅木Bは、木材、金属、プラスチック、あるいは紙等の硬質素材を用い、厚み7mm程度の肉厚を有する長尺の板状に形成されている。また、裏面および下面は壁5(壁紙6)および床7に密着するように平坦に形成され、上部表面にはアールが設けられるとともに、表面の中央やや上方寄りの部分には幅木Bの長手方向に沿って連続して伸びる凹状の蟻溝4が設けられている。また、裏面の上面と下面の図中右端には、コーナーパッドAが取り付けられた状態で爪部2、3の係止突部2b、3bが係合可能な溝8、9がそれぞれ設けられている。

【0007】つぎに、コーナーパッドAによる幅木B、Bの接合方法を説明する。まず、取り付け箇所に合わせて幅木Bの長さをカットする。このとき、幅木Bの端縁が壁面5の角と揃うようにカットする。幅木Bをカットしたら取り付け位置に配置し、蟻溝4に適宜間隔で複数の釘10を打ち付け固定する。このとき、図2の(イ)に示すように、コーナーパッドAが取り付けられる幅木Bの端部付近は、釘10を完全に打ち付けてしまわずに、壁5(厳密には壁紙6)との間にある程度の隙間を設けておく。

【0008】続いて、コーナーパッドA上端側の係止突部2bを幅木Bの溝8に係合させた後、コーナーパッドAを摺りながらもう一方(コーナーパッドA下端側)の係止突部3bを溝9に係合させると同時に突条1を蟻溝4に嵌着させて幅木Bに固定する。なお、先に下端側の係止突部3bを溝9に係合させてその後上端側の係止突部2bを溝8に係合させる方法としてもよい。上記の要領で幅木BにコーナーパッドAを取り付けたら、釘10を完全に打ち付けて幅木BおよびコーナーパッドAを壁5に密着状態で固定する。図3に幅木BおよびコーナーパッドAを壁5に固着した状態を示す。

【0009】図4に入隅用のコーナーパッドA1を示す。これは、上述した幅木B、Bを接合して幅木の入隅

部分を構成するものであり、コーナーパッドAと表裏が逆の構成、すなわち、L字の外側(図中奥側)が幅木Bに取り付けられる裏面となっている。なお、細部の構成、作用はコーナーパッドAと同様であるため説明は省略する。

【0010】以上説明してきたように、本実施の形態のコーナーパッドAは、上端および下端に爪部2、3を設けてこの爪部2、3を幅木Bの裏面および下面に係止させた状態で幅木Bと一体に取り付け位置に固定されるため、取り付け後は爪部2、3が幅木Bと壁5、および幅木Bと床7との間にしっかりと挟持される。よって、シールや接着剤、釘等を用いることなく簡単な作業で確実に固定できる。さらに、爪部2、3の基部2a、3a先端に係止突部2b、3bを突設し、幅木Bに設けた溝8、9とそれぞれ係合させるため、取り付け後に外力が加わっても幅木Bから外れることがない。加えて、コーナーパッドAの裏面に蟻形の突条1を形成し、この突条1を幅木Bの表面に設けた蟻溝4と嵌合させるため、コーナーパッドAと幅木Bとがより強固に固定される。

【0011】(実施の形態2)実施の形態2のコーナーパッドA2は、出隅用の幅木接合部材であり、前記実施の形態1のコーナーパッドAとはほぼ同一の構成である。以下に実施の形態1と異なる点のみを説明し、同一の構成部分には同一の符号を付けてその説明を省略する。図5において、コーナーパッドA2は、柔軟な合成ゴムを使用して平面視略L字形に成型され、裏面の入隅部分にはクッション部11が設けられている。また、裏面の左右端縁付近には、蟻形の突条12、12が上下方向に突設されている。前記幅木B1の表面端縁付近には、前記突条12、12が嵌着可能な矩形の溝部13、13が凹設されている。なお、幅木B1はあらかじめ現場搬入前に工場等で施工図等を参照して所定長さにカットしておき、同時に溝部13を凹設した状態としておく。

【0012】コーナーパッドA2による幅木B1、B1の接合方法は、前記実施の形態1のコーナーパッドAによる幅木B、Bの接合方法とはほぼ同じであり、コーナーパッドA2の一方の係止突部2b(3b)を幅木B1の溝8(9)に係合させた後、コーナーパッドA2を摺りながらもう一方の係止突部3b(2b)を溝9(8)に係合させると同時に、突条12、12を溝部13、13に嵌着させて幅木B1に固定するものである。

【0013】本実施の形態のコーナーパッドA2は、合成ゴムで成型されており、さらに、角部にはクッション部11が設けられているため、歩行者が角に足をぶつけて怪我をすることがなく、隅部の安全性が高められている。また、コーナーパッドA2では裏面の左右端縁付近に上下方向に設けられた突条12、12と幅木B1の溝部13、13とを嵌着させる構成であるため、合成ゴム等で形成されているにもかかわらず、コーナーパッドA2の左右端縁が幅木B1から浮いた状態とならずにしっ

5

かりと幅木B1に固定される。

【0014】以上、本発明の実施の形態を説明してきたが、本発明の具体的な構成は本実施の形態に限定されるものではなく、発明の要旨を逸脱しない範囲の設計変更等があっても本発明に含まれる。例えば、実施の形態1のコーナーパッドはプラスチックから成型し、実施の形態2のコーナーパッドでは合成ゴムを用いた例を示したが、コーナーパッドの素材は可撓性素材または柔軟素材であればよい。加えて、コーナーパッドの肉厚も任意に設定することができる。一方、幅木の材質や形状等も自由に設定可能である。実施の形態2では、幅木の表面端縁付近に矩形の溝部を設け、この溝部とコーナーパッドの裏面左右端縁付近に設けた蟻形の突条を嵌着させる構成としたが、これらに代えて、コーナーパッドの裏面に細長い突条を設けておき、現場でのこぎり等を用いて幅木の表面に前記突条が嵌合可能な細長い溝を形成して両者を嵌着させる構成としてもよい。また、本実施の形態1、2のコーナーパッドでは、爪の基部先端に係止突部を設け、この係止突部を幅木の溝部に係合させる構成としたが、係止突部を設けずに基部のみの構成としてもよい。

【0015】

【発明の効果】本発明は上述のとおり構成されているので、次に記載する効果を奏する。請求項1記載のコーナーパッドにおいては、爪が幅木の上端または下端の少なくとも一方に係止した状態で幅木と一体に取り付け位置に固定されることで幅木と壁あるいは幅木と床との間に挟持された状態となるため、接着剤等を用いることなく簡単な作業でもってコーナーパッドを確実に固定できる。さらに、従来のコーナーパッドと比較して肉薄のものやゴム等の柔軟素材を使用しても上下端縁が幅木から浮き上がらないので、上からタッカー等を打ち付けて浮き上がりを防止する必要がなく外観的にも優れている。請求項2記載のコーナーパッドにおいては、鉤状に形成された爪が幅木の溝と係合して、コーナーパッドと幅木の固定をより確実にできる。請求項3および4記載のコ

6

ーナーパッドにおいては、幅木の溝と係合する突条が形成されているため、コーナーパッドと幅木の固定をより確実にできるとともに、両者の密着度がよりよくなる。請求項5記載のコーナーパッドにおいては、ゴム等の柔軟素材で形成したので、クッション性に優れ、人が足等をぶつけたときの衝撃を吸収して怪我を防止でき、安全性の高いコーナーパッドを提供することができる。請求項6記載の幅木においては、請求項1～5に記載のコーナーパッドとともに使用することによって、幅木の施工簡易化を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施の形態1のコーナーパッドの裏面側を示す斜視図である。

【図2】コーナーパッドおよび幅木の断面図である。

【図3】コーナーパッドを幅木に取り付けた状態を示す斜視図である。

【図4】入隅用コーナーパッドの表面側を示す斜視図である。

【図5】実施の形態2のコーナーパッドの裏面側を示す斜視図（イ）、幅木を壁に取り付けた状態を示す斜視図（ロ）である。

【符号の説明】

A、A1、A2 コーナーパッド

B、B1 幅木

1、12 突条

2、3 爪部

2a、3a 基部

2b、3b 係止突部

4 蟻溝（装飾溝）

5 壁

6 壁紙

7 床

8、9 溝

10 釘

11 クッション部

13 溝部

【図3】

